

目次

序章「ヤマネコの夢」	4
嵐の朝市	8
なぎさドライブウェイ	12
光る棚田	16
その水は	18
トドワラ	22
えぞふじ	24
ヒグマ	28
寿司屋通りですしを食う	32
雪の夜	34
カッパだけ	36
凍える夕景	38
ビバーク七句	40
スノーモンキー	41

旅 情

宇治橋	42
とつふで冷酒	44
街の灯	46
なんて娘だ	47
青い道	48
美	50
木道に寝る	52
さかなを食へましょ	54
店先	55
水の洞窟	56
ちがつて、いいけれど	58
昭和の町に溶けていく	62
地鶏で地酒を	66
赤い流れ	68
終章「山で見た夢」	72
あとがき	78

序 章「ヤマネコの夢」

—— 対馬・野生動物保護センター ——

ヤマネコは

管理された檻の中で
静かに眠っています

たった一匹

涼風の中で
柔らかに寝息を立てています

私を見てほしかったけど

ガラスを叩いてはいけませんと

書いてあるので

起こすわけにはいきません

でも

本物が寝ています

目の前で寝ています

そして

自由に原野を歩く夢を見えています

いつか

山に帰れるのでしょうか
少なくなった仲間たちがいる
青い山に帰れるのでしょうか

ツシマヤマネコは
田んぼのあぜ道に
平気で現れます
舗装道路も
平気で横断します

そのため
畏にかかったり
交通事故に遭ったりします

だれだって
彼らを助けたいのに

ヤマネコは
管理された檻の中で
静かに眠っています

たった一匹
涼風の中で
柔らかに寝息を立てています

そして
自由に原野を歩く
夢を見えています

彼を見ている私も
生きることの檻から抜け出せず
自由に原野を歩く
夢を見えています

嵐の朝市

—— 能登 ・ 輪島朝市 ——

買うてくだあー

かあちゃんたちの声が飛ばされる

昨夜来の強風は

予報どおりに嵐になってきた

二百の出店があるという朝市も

今朝は二十もあるのかな

凄みを増した強まった風に

たたみ始めた店もある

まけとくさげに買うてくだあー

空は暗さを増し

ますます風雨が唸り出す

遠来の観光客は無理をしながら

残っている店を覗いて歩く

嵐と店と客との戦いだ

まけとくさげに

まけとくさげに買うてくだあー

ほらお買い得だよ

いま店を閉めるからさ

私の傘の骨は折れ

店のシートも限界で

さすがのかあちゃんたちも店じまい

強い雨に打たれながら
造り酒屋の店頭に飛び込むと
落ち着いた暗がりの中で
いろんな酒瓶が私を睨んでいる

いつもなら

本醸造で十分だけど

旅の途中だもの

地酒の純米吟醸を買ってしまえ

人の途絶えた朝市通りの

豪雨の中を突っ走り

レンタカーの中へ飛び込んだ

まるつきりドラマだね朝市は

窓に叩きつける雨を横目で見て

四合瓶の口を開け
とろりと喉に流し込む
命の水が胃を震わす

濡れた頭で考える

私は何をしてるんだろう
腑に落ちた酒はうまいけど

能登の果てにただ一人

嵐の中で酒飲んで

寂しい馬鹿そのものだね

酔った頭でまねをする

かあちゃんたちの誘う声

買うてくだあー

まけとくさげに

買うてくだあー

なぎさドライブウェイ

—— 能登 ・ 千里浜 ——

レンタカーだから

心おきなく を走る

こんな砂浜

どこにもないよ

たくさんの笑顔を乗せて

バスまで水辺を走ってる

さあ

Uターンして

もう一往復走るぞ

掘っ立て小屋の売店が

所々にあつて

目を焼く匂いが

背中を引っ張る

青空

降る光

遠い雲

この風景は

永遠に残れ

遙かな水平線
寄せる波

爽やかに吹く風

車の窓は全開だ

波を轆きながら

水際を疾走する

ああ

飛沫も屋根に

舞い上がる

レストハウスもあるけれど

砂浜に立つ売店で

おいしくおいしく

焼きハマグリを食べた

青空

降る光

遠い雲

このおいしさは

永遠に残れ

この風景は

永遠に残れ